



9月14日・新潟競馬場 初勝利のウイナーズサークル

小島友実の あの馬の STORY



ヘルツフロイント

の月14日の新潟競馬場での末勝利戦で初勝利をマークしたベルツフロイント。「ヘルツ」から「戦田」の勝ち上がり成績だけを見ない限りまだ順調に来てこの品象を受け取るが、「ヘルツ」の過程は決して平坦な道程ではあつまつでした。

管理する古賀慎明調教師がいの馬を初めて見たのは1歳の春頃。当時の印象をいじり振り返ります。

「ハーツフライ産駒で体がいいから見た見栄えのすく好馬体。これは楽しみだなと思つましたね」

しかし育成が進んで段階で両前脚の球節に疲れが出るようになりました。調教を控える事もあつたみたい。ついで、この馬が2歳の1月に手術が行われました。

「元々馬格のあらぬ馬で、年初から脚骨片を除去手術。僕も牧場へ何度も馬を見に行きましたが、術後の治癒経過も良くて、のんびり乗りましたが、その後、ヘルツフロイントは今年の

「手術した経緯のある馬だから、ダービーの「ヘルツ」を選択しました。(仕上がるまで)時間がかかるかなと思つてしまつたが、動きを見たら良いんですよ。手応えを感じましたね」

「かっこいい馬の「ヘルツ」戦で乗りました」

の月14日の新潟競馬場での末勝利戦で初勝利を手にしたベルツフロイント。「最後方からのレースにならしくも、ましめた。でも直線ではジワジワ脚を使いつけて詰めてきたので、一回走った事で跟に刺激になり、変わってくれたのがいい感じになりました」

管理する古賀慎明調教師がいの馬を初めて見たのは1歳の春頃。当時の印象をいじり振り返ります。

「ハーツフライ産駒で体がいいから見た見栄えのすく好馬体。これは楽しみだなと思つましたね」

しかし育成が進んで段階で両前脚の球節に疲れが出るようになりました。調教を控える事もあつたみたい。ついで、この馬が2歳の1月に手術が行われました。

「元々馬格のあらぬ馬で、年初から脚骨片を除去手術。僕も牧場へ何度も馬を見に行きましたが、術後の治癒経過も良くて、のんびり乗りましたが、その後、ヘルツフロイントは今年の

「手術した経緯のある馬だから、ダービーの「ヘルツ」を選択しました。(仕上がるまで)時間がかかるかなと思つてしまつたが、動きを見たら良いんですよ。手応えを感じましたね」

「かっこいい馬の「ヘルツ」戦で乗りました」

は1着に破れてしまつたわ。

「最後方からのレースにならしくも、ましめた。でも直線ではジワジワ脚を使いつけて詰めてきたので、一回走った事で跟に跟に刺激になり、変わってくれたのがいい感じになりました」

の言葉通り、2戦目は福島戦では3着と大きく着順をアップさせました。

「1月のレースの前グリーンフローレンスは初戦は弱馬になつてました」と報告したんですね。やはり「ヘルツ」戦の5着は余裕があつまつでしたね。2

戦目では2着に絞れてしまつたから不利がありましたものの、直線近く伸びて着。変わった馬を現せてくれましたね」「その後は新潟のダート1800mを走り、3戦目、4戦目共に2着。そして迎えた9月14日。5戦目のレースで先頭ゴールインを迎える事が出来たのです。」中田からのレースです、4コーナーでは外番。コーナーを回りました後に、行き脚がつかない感じになつて、ついつい乗つ込んでしまいになつてました」

嬉しう初勝利を手にしたベルツフロイントは、レース後はJRAアシヤカベリフレッシュ放牧。10月の中旬に厩舎へお話を伺いに行つた際、馬は不在でした。普段の様子を古賀調教師に教えて頂きました。

「体の大きな牡馬にしては温厚で性格の良い馬です。調教に行くとあまり変わらぬであります。基本的に手のかからない馬です」

「1月の馬の調教に乗つてから十ヶ月間、競馬助手にも話を聞けたのですが、「普段は緩い所があるものの速い調教をあらじ体を使って良い走りをします。今後、体がパンとしてばかりよりも良い方向へ思つてもらおう」と教えてくれました。やはりこの馬のその後に關しては古賀師も樂しかつてます。

「まだ未だ戻らぬ余地がありのうじて手の成長を引き出しきあつたじですね。これまでのレースぶりからわねい、クラスが上がつても活躍できると思つてしまふ上の上を回すところがいいですね。」

「1月のヘルツフロイントが初めてなんですが、初戦からぱつぱつ乗つて、北村宏司騎手はこの馬はいいコトナリングをつかね馬だと把握してくれて、この馬を持て乗つて、たよりでましたが、初戦からぱつぱつ乗つて、北村宏司騎手はこの馬はいいコトナリングをつかね馬だと把握してくれて、この馬を持て乗つて、たよりであります。これからも頑張りましょう」とおしゃべりしてお話しをしました。

ヘルツフライ産駒は成長力にも活躍の幅が広い馬でしたからね。ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。

嬉しう初勝利を手にしたベルツフロイントは、レース後はJRAアシヤカベリフレッシュ放牧。10月の中旬に厩舎へお話を伺いに行つた際、馬は不在でした。普段の様子を古賀調教師に教えて頂きました。

「体の大きな牡馬にしては温厚で性格の良い馬です。調教に行くとあまり変わらぬであります。基本的に手のからない馬です」

「1月の馬の調教に乗つてから十ヶ月間、競馬助手にも話を聞けたのですが、「普段は緩い所があるものの速い調教をあらじ体を使って良い走りをします。今後、体がパンとしてばかりよりも良い方向へ思つてもらおう」と教えてくれました。やはりこの馬のその後に關しては古賀師も樂しかつてます。

「まだ未だ戻らぬ余地がありのうじて手の成長を引き出しきあつたじですね。これまでのレースぶりからわねい、クラスが上がつても活躍できると思つてしまふ上の上を回すところがいいですね。」

「1月のヘルツフロイントが初めてなんですが、初戦からぱつぱつ乗つて、北村宏司騎手はこの馬はいいコトナリングをつかね馬だと把握してくれて、この馬を持て乗つて、たよりであります。これからも頑張りましょう」とおしゃべりしてお話しをしました。

ヘルツフライ産駒は成長力にも活躍の幅が広い馬でしたからね。ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。